



# 学校通信

平成30年度 第2号

平成30年 5月 1日

練馬区立開進第三小学校

校長 岡部 良美

## 『大切なものは、なんですか?』

校長 岡部 良美

子供たちに「大切なものは、なんですか?」と尋ねてみると、学年問わず、真っ先に返ってくる答えは「友達」です。次に「命」や「家族」が続き、「お金」「家」「食べ物」や「ゲーム」「飼っている犬」なども答えの1つです。5, 6年生になると「空気」「地球」「夢」「未来」など答えの範囲が広がってきます。「勉強」といううれしい答えが混じることもまれにあります。

なるほど、どれも大切なものです。特に「命」に関しては、多発している事件や事故にからむ学校や家庭の教えの成果と言えるでしょう。まさに命あっての物種、命無くして人生はありません。「家族」の答えが多いのは、それぞれの家庭がまとまりよく日々過ごしている証拠でしょう。

さて、多くの子供たちが圧倒的に大切だと感じ、大事だと断言するのは「友達」です。それらは、おそらく子供たちが日々過ごす中で、大きな拠り所になっているからなのでしょう。子供はごく幼い頃から無意識のうちに「友達」の存在価値が分かるのだと思います。実際に友達と一緒に食べる給食はとてもおいしく、頭を悩ます授業でさえも友達も同じ状況だから耐えられるというものです。友達と一緒に叱られた経験はいずれよい思い出になりますが、一人で叱られた経験は苦い思い出にしかありません。先生のひと言の褒め言葉もいいけれど、友達からもらう盛大な拍手ほど誇り高いものはないでしょう。悲しみは半分に、喜びは倍に、共有した感動は一生のものになる。それが「友達」です。「友達=心を開いて話せる存在、信頼できる存在、共にいてうれしい存在」の有無は大きいです。その存在が多いほど子供たちは自分の力を安心して発揮でき、高め合えるのです。

4月20日に1年生を迎える会がありました。1年生が6年生と手をつなぎ入場してきました。開三小には脈々と受け継がれてきたことがあります。校歌の歌詞にある『まことのこころ ひとすじに 足なみそろえ すすみゆく』です。会場の飾り、1年生へのプレゼントのペンダントや出し物、1年生への優しいしぐさ、子供たちの笑顔など、会場の体育館は、開三小にいるみんなが友達という至福の一体感ができていました。

互いに認め合い、励まし合えるようなよきつながりがあれば、楽しさが生まれ、そのうち倍になり、心に残る経験として重ねられていくと思います。人生が豊かになるというものです。6月には『開三交流祭り』があります。友達と豊かにかかわり、子供同士の人間関係づくりを進め、『大切なもの』は『数え切れないほどたくさんの友達』だと言えるように今後も教育活動を進めてまいります。

